

「大人が変われば子どもも変わる」という標語が書かれた看板を見かけます。青少年健全育成運動の取り組みの一環のようです。この「大人が変わる」とはどんな事だろうかと自分の経験から考えてみました。

もう何十年も前のことです。私が中学校で一年生の担任をしていた時、クラスに田村君(仮名)という生徒がいました。明るく元気で友達の中ではとても評判が良い子でした。しかし、「もっと深く考えて行動して欲しい」と思う場面があり、何か問題が起きなければよいがと心配をしていました。

一学期は無事過ぎて学校生活にもすっかり慣れ、二学期に入り学園祭のシーズンになりました。学園祭の人気種目の一つ、クラス全員リレーの練習真っ最中の時です。走る順番や練習計画は体育委員の大原さん(仮名)を中心に立案され、放課後の限られた時間を使い熱心に練習が行われました。練習とはいえ当日と同じくらい競い、手に汗握り、声援が飛び、生徒も教師も熱くなりました。

そのとき、大原さんが怒って「田村君がふざけていて一生懸命走らないので何とかしてください」と訴えてきました。確かに大原さんの言う通りでふざけて走っているように私にも見えました。そこで田村君を呼びました。大声

で叱るのをぐっと我慢し、本人の言い分を聞こうと思いました。田村君はしばらく押し黙っていました。何回か「答えてごらん」と促すとやっと途切れ途切りに話し始めました。

答えは断片的で分かりにくいものでしたがまとめると「僕は足が遅い。一生懸命走ってもどうせビリの方だ。みんなに悪いので本当に頑張った。だけどみんなから『真剣に走ってない』と文句を言われた。だからふざけた態度をとった」ということでした。正直、これには驚きました。そこまで考えていた田村君の苦悩と理由が分かりました。

田村君の行動、意見が正しいとは思いませんでしたが叱ったりせず、本人の思いを聞くことができませんでした。物事を深く考えないで生活していると思っていた田村君は、学級の中で友人や自分の立場を含めた複雑な関係を何とかしようと自分なりに考え行動していたのです。

その後大原さんにもお願いして田村君と話し合い、その後田村君は真剣に全員リレーに取り組みました。

子どもの問題視されるような行動の裏には何らかの原因があり、何かを訴えようとSOSのサインを出しているということがこの事を通して分かりました。だからまず始めに大人の私達が子どもの見方を変えないと子どもは変わらないと気づかされました。

連載・青少年健全育成シリーズ 第323回

「子どもの世界を知ることが第一歩かもしれない」

青少年への声かけ・あいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ先：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄